

〔骨董集 上編上〕粉の看板

元祿の比おしろいの看板に白鷺をゑがきたる事あり、左にあらはす圖略○圖の如し、按にこれゑろきものといふはんじ物なるべし、

〔嬉遊笑覽 附録十二〕婦人のかほなり善きを凸といふ、此故に昔より白粉の看板に箱を凸の形に造れり、漢土にも、元曲西樓記に、淨扮醜妓上云々、眼大眉粗面又凹とあり、

〔雅筵醉狂集 雜六〕題を、らす

おしろいの看板とする凸ナカダカナクダボに凹ナカダカナクダボをらぬ下駄屋文盲

〔枕草子 一〕七日月○正は○中 白馬見んとて、里人はくるまきよげに去たて、見にゆく、○中 見るは

いとせばきほどにて、とねりがかほのきぬもあらはれ、ゑろきもの、ゆきつかぬところは、まことにくろき庭に、雪のむらぎえたる心ちしていと見ぐるし、

〔本朝無題詩 人倫〕傀儡子

中原廣俊

傀儡子徒無禮儀、其中多女被人知○中 賣色丹州容忘醜丹波國傀儡女、容白、白恐貌誤、皆醜故云、得名赤坂口多髭參河國赤

坂傀儡女中、有多口髭之者、號口髭君、故云、施朱傅粉偏求媚、微髻幾祈神與祇、

〔明月記〕建曆三年十一月十二日、今日風流櫛等構出、送之按察、火桶押錦以櫛爲灰、以白物爲灰、○下略

〔増鏡 五 内野の雪〕十二月○元 元 一日は、石清水のやしろに行幸あり、○中 別當通成いみじうきらめ

かれたり、けさうしたまへるをぞ、わかき人なれども、ひるの別當、ゑろきものつくることやあるなど、ふるきひとうちさ、めきけるとかや、

〔吾妻鏡 四十九〕正元二年元應 三月廿八日乙未、和泉前司行方持參御息所御服月充注文於御所、

將軍家親宗尊覽之、

正月分略○中 御白粉

白粉雜載